

みどりみらい 2nd SEASON ぐんじとしのりの議会報告

2006/07/22 Vol. 92 西の原 2-3-6-104 TEL/FAX 45-8362
E-MAIL ID / mmirai@kitemachi.com

印西市議会/平成 18 年第 2 回定例会報告 (3)

～ 印西市の教育を考える (1)

いつもお世話になっております。印西市議会第2回定例会(6月議会)は、6月29日(木)までの会期にて行われ、閉会しました。今回から、6月議会での私からの市政への「教育問題に係る」一般質問をご紹介します。印西市の教育はどうあるべきかを皆様と考えていきたいと思っております。

6/15 (木曜日) に、一般質問に立ちました。

以下、市当局の回答です。

1. 印西市における「教育改革」について

昨年10月に「新しい時代の義務教育を創造する」という標題で中央教育審議会から答申が出されました。ここでは従来の「義務教育システムの改革」を提言していますが、小泉政権下で国政全般にわたる急激な構造改革が進行するなかで、教育の分野でも規制緩和と地方分権による諸改革が進行していると考えています。

印西市では中央教育審議会(中教審)の答申をどのように捉え、「創意工夫で教育の質を高めること」を目指すのでしょうか? また、地方分権時代だからできる、印西市独自の教育改革はあるのでしょうか。

(1) 印西市教育委員会ではどのような教育施策をもっているのか。

施策実現のための手法はどのようなものか。

(回答/教育長 (抜粋)) 市教育委員会では、本市の目指す将来都市像、「人と自然が笑顔でつながるまち - いんざい」の推進を図るうえで、人づくりが根幹であることから、教育施策の基調を「健やかな心と体を育む教育」と定め、健全な心や体を育むことを、幼児から高齢者に至るまですべての人間教育の基本といたしております。この基調のもとに、「豊かな人間性と未来を築くたくましい力を持つ子どもを育成し、生涯学習の基礎づくりをめざす。」「市民それぞれが、生きがいを感じ、市民相互の心の通いあう人間味豊かな生涯学習によるまちづくりをめざす。」「ゆとりと潤いのある地域社会を構築するために、地域文化の醸成をめざす。」「心身ともにたくましく健康で明るい市民生活の充実をめざし、生涯スポーツの推進を図る。」という、4つの目標を定め、この目標を実現するための「具体目標」として、12項目を定めております。この教育施策を推進するため、創意工夫を図り、質を高める教育活動が展開されるよう、各学校においては、実情に応じた研究テーマを設定し、教育活動を展開しております。市教育委員会といたしましても、より教育効果が上がるよう、指導主事の学校への派遣など、学校との連携に努め、支援しているところでございます。

(ぐんじとしのりより市民の皆様へ/再質問と執行部からの回答)

教育行政施策ではその施策内容によって トップダウンで進める方法と ボトムアップで検討を重ね、多くの意見を傾聴しながら実施に向かう方法の二つがありますが、印西市ではどちらなのかな? といわれるとわからないというのが本音です。印西市の施策でそれぞれあてはまるものはあるのでしょうか? 今回は時間の関係で聞けませんでした。例えば、山崎市長が25人学級をやりたいと言ってすすめるのが、トップダウン。一方、例えば学校選択性の導入については多様な考え方が見込まれると思いますので、地域や家庭を巻き込み考えなければならぬ。つまり例えば「学校選択性」という施策を行なうのであれば、ボトムアップ的に推進することが望ましいと思います。どこが中心となって施策を行なっていくか。勿論、「教育委員会」です。しかし、印西市の教育委員会ではオープンな議論ができるのでしょうか。私は現状では充分できてないと考えています。

また、印西市は、施策実現に向けて、家庭・学校・地域・社会がその力を発揮できるよう「子どもの育成」という共通の視点に立って、子どもの福祉、教育、衛生、産業等がどうあるべきかを行政としてトータルに考え、従来の縦割り組織を超えて、組織横断的な対応が不可欠だと考えます。(例えば「こども課」の創設など。)

さらに、印西市は、家庭・学校・地域・社会を子育ての主役に据えて、これら教育の担い手が相互に補完・協

